

派遣承認要求書

令和 8 年 5 月 11 日

栗原市議会議長 殿

会派名 Next くりはら

代表者 高橋 渉



下記のとおり議員を派遣したいので、承認されるよう要求します。

記

日 時	令和 8 年 7 月 6 日 (月) 06 時 30 分から 令和 8 年 7 月 8 日 (水) 18 時 20 分まで
派遣先	① 岡山県 高梁市議会『岡山県高梁市松原通 2043 番地』 ② 岡山県 奈義町議会『岡山県勝田郡奈義町豊沢 306-1』
派遣目的	① 岡山県高梁市 NHK のニュースで拝見し、産婦人科医院の無い栗原市においても、今後必ず必要となると思う高梁市で行われている救急車を活用した妊婦さんへの「ママサポート 119」事業の先進的事例についての詳しい内容や経緯、実際の運用に関する問題などの考察。 ② 岡山県奈義町 栗原市でも課題になっている少子化対策。これに力を入れて取り組んでいる奈義町の少子化対策について (少子化対策の取組説明+奈義チャイルドホームへの現地視察) を含めた取り組みの内容や実態、成果などの検証と併せて、栗原市でも悩ましい問題の特殊出生率の低さに対して、奈義町の特殊出生率が高い理由についての施策や取り組み方についての考察。
経 費	旅費 280,950 円 (1 人当たり 93,650 円) その他経費: 視察先への土産代 4,500 円・奈義町視察料金 1 団体 10,000 円÷4 人 (2,500 円) ×3 人 7,500 円・資料代 1 人 2,000 円 (6,000 円)
派遣 議員氏名	高橋 渉・佐藤 千昭・菊地 広志
議長依頼 文の要否	要 否
備 考	その他参加予定者 政策フォーラム 1 名



栗原市議会視察行程表

【会派名：Nextくりはら】

日程：令和8年07月06日（月）～07月08日（水）

月日	行 程	発	着	摘 要
07/06 （月）	くりこま高原駅 ～ 東京駅	6:57	8:56	JR東北新幹線 はやぶさ102号
	東京駅 ～ 岡山駅	9:12	12:25	JR山陽新幹線 のぞみ19号
	岡山駅 ～ 備中高梁駅	13:13	13:47	JR特急やくも13号
	岡山県高梁市 行政視察	15:00	16:30	高梁市役所 健康づくり課 健康増進係
	備中高梁駅 ～ 岡山駅	17:14	17:47	JR特急やくも22号
	ホテル（岡山市内泊）		18:10	ドーマーイン岡山 岡山県岡山市北区錦町8-1 TEL：086-233-5489
07/07 （火）	岡山駅 ～ 津山駅	9:51	11:01	JR津山線 快速 ことぶき
	津山駅バス停 ～ ナギテラスバス停	12:25	13:11	中鉄北部バス
	岡山県勝田郡奈義町 行政視察	13:30	15:30	奈義町役場 総務課 総務企画班 「奈義チャイルドホーム」他
	ナギテラスバス停 ～ 津山駅バス停	16:10	16:56	中鉄北部バス
	ホテル（津山市内泊）		17:20	ホテルルートイン津山駅前 岡山県津山市横山108-1 TEL：050-5576-7805
07/08 （水）	津山駅 ～ 岡山駅	9:56	11:05	JR津山線 快速 ことぶき
	岡山駅 ～ 東京駅	11:58	15:15	JR山陽新幹線 のぞみ20号
	東京駅 ～ くりこま高原駅	15:36	18:01	JR東北新幹線 やまびこ67号
	解散		18:20	

様式第10号（第7条関係）

視察研修結果報告書

令和 8 年 7 月 10 日

栗原市議会議長 尾形 勝通 殿

会派 Next くりはら
氏名 高橋 渉 印

視察・研修した結果について、下記のとおり報告します。

記

1 期 間 令和8年7月6日～8日

2 視察研修先

① 岡山県高梁市（高梁市役所健康づくり課・高梁市消防本部）

② 岡山県勝田郡奈義町（総務課）

3 目 的

① 岡山県高梁市

◎NHK のニュースで拝見し、産婦人科医院の無い栗原市においても、今後必ず必要となると思う高梁市で行われている救急車を活用した妊婦さんへの「ママ・サポート 119」事業の先進的事例についての詳しい内容や経緯、実際の運用に関する問題などの考察。



② 岡山県勝田郡奈義町

◎栗原市でも課題になっている少子化対策。これに力を入れて取り組んでいる奈義町の少子化対策について（少子化対策の取組説明＋なぎチャイルドホームへの現地視察）を含めた取り組みの内容や実態、成果などの検証と併せて、栗原市でも悩ましい問題の特殊出生率の低さに対して、奈義町の特殊出生率が高い理由についての施策や取り組み方についての考察。

4 調査研究内容

別紙の通り。

5 参加議員

高橋 渉・佐藤 千昭・菊地 広志

1 岡山県高梁市役所（高梁市健康福祉部健康づくり課・高梁市消防本部）
（岡山県高梁市松原通 2043）（7 月 6 日）

会派「Next くりはら」では、岡山県高梁市が実施している「ママ・サポート 119」について行政視察を行った。高梁市議会議長の伊藤氏や川上議会事務局長、健康福祉部次長の内岡氏はじめ、高梁市消防本部の坂本消防指令など 6 名の皆さんにご同席頂き、「ママ・サポート 119」事業についての詳しいご説明を頂いた。

高梁市では市内に分娩施設がないため、多くの妊婦が岡山市や倉敷市など市外の医療機関で出産している。そのため、陣痛や破水など緊急時の搬送が大きな課題となっており、その対策として平成 27 年からママ・サポート 119 を運用している。

この制度は、妊婦が事前に氏名や出産予定日、かかりつけ医療機関、緊急連絡先などを登録しておくことで、119 番通報時に消防指令センターが登録情報を確認し、救急隊へ迅速に情報を伝達できる仕組みである。救急隊は現場に到着する前から必要な情報を把握できるため、現場での確認作業が少なくなり、搬送までの時間短縮につながっている。また、医療機関との連携も円滑になり、妊婦や家族の不安軽減にもつながっているとの説明を受けた。

制度開始以来の登録者数は延べ 1,351 件、搬送実績は 90 件で、近年は登録率もほぼ 100%となっている。特に印象に残ったのは、この制度が新たな施設整備や多額の予算を必要とせず、保健部門と消防本部が日頃から情報を共有し、運用を積み重ねてきたことで定着している点である。また、消防隊員が定期的に産科救急の研修や実践訓練を行い、万一の車内分娩にも対応できる体制づくりを続けていることから、安全を第一に考えた取組であることが伝わってきた。

視察では、制度導入までの経緯や個人情報の管理、医療機関との調整、登録率を高める工夫などについても詳しく伺った。説明を受ける中で感じたのは、この制度の中心にあるのはシステムではなく、「妊婦に安心して出産してもらいたい」という行政と消防の共通した思いであり、その思いが関係機関の連携につながっているということである。

栗原市でも産科医療を取り巻く環境は決して楽観できる状況ではない。今後の医療体制の変化も見据えれば、妊婦が安心して出産できる環境づくりについて、消防本部や医療機関との連携を含めた検討が必要であると感じた。高梁市の取組は、そのための一つの有効なモデルであり、栗原市でも地域の実情に合わせた制度として導入できるか、今後さらに調査・研究していく必要があると考える。

2 岡山県勝田郡奈義町役場（奈義町総務課）

（岡山県勝田郡奈義町豊沢 306-1）（7月7日）

視察 2 日目は、岡山県勝田郡奈義町を訪問し、全国的に高い合計特殊出生率を維持している背景と、地域ぐるみで子育てを支える「なぎチャイルドホーム」を中心とした少子化対策について行政視察を行った。奥 正親 奈義町長と総務課副参事の森藤氏にご対応頂き、奥町長から冒頭に少子化対策や子育てについての熱い想いをお聞きして、トップの想いはやはり重要で、それに職員や町民が追従しているのがとても感じられた。

奈義町は人口約 5,300 人の町であるが、長年にわたり子育て支援を町政の重要課題として位置付け、継続的に施策を積み重ねてきた。担当者からは、「合計特殊出生率だけを追い求めてきたのではなく、人口減少から地域を守るためのまちづくりとして少子化対策に取り組んできた」との説明があり、「少子化対策は子育て世代だけのためではなく、町に暮らすすべての人に関わる課題である」という考え方が行政全体に浸透していることが印象的であった。

奈義町では、出産祝金や高校生までの医療費助成、学校給食費の無償化などの経済的支援に加え、子育て家庭の孤立を防ぐ精神的・心理的支援にも重点を置いている。その拠点となっているのが「なぎチャイルドホーム」であり、親子が自由に集い、保護者同士が交流しながら気軽に相談できる環境が整えられていた。

さらに、地域住民が子どもを一時的に預かる「スマイル」事業や、保護者同士が協力して子育てを行う自主保育活動など、行政がサービスを提供するだけでなく、地域住民が主体となって子育てを支える仕組みが定着していた。また、子育て世代の柔軟な働き方を支援する「仕事コンビニ」や住宅支援、移住・定住

施策など、子育て、雇用、住まいを一体的に進めている点も奈義町の特徴であり、それぞれの施策が相乗効果を生み出していることを確認した。

今回の視察を通じて、奈義町の成果は特定の制度や補助金だけによるものではなく、「子育てしやすい町をつくる」という明確な方針のもと、行政と地域住民が同じ目的を共有し、長年にわたり着実に取り組んできた結果であることを改めて認識した。子育て支援は福祉施策にとどまらず、人口減少対策、地域活力の維持、さらには持続可能なまちづくりにつながる重要な政策として位置付けられていた。

栗原市においても出生数の減少が続く中、経済的支援だけではなく、子育て家庭の孤立防止や地域とのつながりづくり、働きやすい環境の整備、定住施策などを総合的に推進していく視点が重要である。会派「Next くりはら」としては、今回の視察で得た知見を今後の政策提言や議会活動に生かし、栗原市の実情に即した少子化対策の充実につながるよう取り組んでいきたい。

先進事例視察研修報告書

議員 高橋 渉

日時：令和8年7月6日(月)

場所：岡山県 高梁市議会

目的：救急車を活用したママサポート事業

栗原市は現在、産婦人科の無い空白地帯となっている。

今回の視察先、高梁市も同様であったが、救急車を活用し、妊婦が安心・安全に出産できるシステムを構築した。それが「ママサポート 119」（妊婦事前登録制度）である。事前に妊婦さんの情報を登録しておくことで、緊急時にはスムーズに対応することができる。

奈義町と同様少子化対策に力を入れている中で、安全に出産し、子育てが安心してできる。この事が少子化対策の重要な点である。この制度は実効性がある施策であり、市当局に提言したい

先進事例視察研修報告書

議員 高橋 渉

日時：令和 8 年 7 月 7 日（火）

場所：岡山県 奈義町議会

目的：少子化対策の取組について

全国の自治体にとって少子化対策は頭の痛い課題である。

今回の視察先は出生率が全国に比べ高くなっている奈義町である。出生率が高い背景としては、結婚年齢が低く、子供が 3 人以上持っている世帯の多さです。その要因としては、充実した子育て支援と地域住民同志で支えあうサポート制度がしっかり確立していることである。子育て拠点施設の充実、コンビニと連携した自立型経済支援などが特色として挙げられる。

栗原市においても様々な助成金で支援を行っているが、単に金で支援するだけでなく、子育ての環境を整えることが肝要であることを強く感じた次第である。

会派視察 意見書

会派名	Next くりはら	氏名	佐藤 千昭
視察日	令和8年7月6日（月）～8日（水）		
視察先	① 岡山県高梁市（健康づくり課・高梁市消防本部） ② 岡山県勝田郡奈義町（総務課・なぎチャイルドホーム）		

視察内容（※概要・所見・市政に生かせることなど）

① 岡山県高梁市「ママ・サポート119」について

高梁市の「ママ・サポート119」は、広い市内（人口密度46人/km²）で妊婦が体調が急変した場合の搬送先への救急車での対応についてであります。

妊婦さんの事前登録（妊娠週数、既往歴、かかりつけ産科になどの情報を事前に共有）により、的確、迅速な対応で安全、安心な出産につなげるという制度となっています。当然、消防と保健部門との連携強化が重要となります。

また、救急隊の現場での周産期緊急や現場活動と必要に応じて高次医療機関との調整も考えられます。今後の課題は、制度周知の継続、登録率の向上救急隊員の知識技術向上などであります。産科ということもあり女性救急隊員の増員（現在3人）や市職員関係者の登録者が少ないとも話されていました。

産婦人科業界は今後益々都市部集中、医師の大規模病院への流出が進むといわれます。栗原市でも産婦人科病院対策に努めております。先進事例を参考に的確な対応をすべきであると思っています。

② 岡山県奈義町 少子化対策について

奈義町は中心部から半径 2 km に人口の 8 割が定住するコンパクトシティです。世界的な建築家・磯崎新設計・プロデュースによる「第 3 世代の美術館」として、奈義町現代美術館を開館、新しいタイプの美術館で常設作品の中で音楽やダンスイベントを実施。「最近ではインスタ等 SNS の影響で連日若い女性を中心に大勢の入館者で賑わっている」と聞きました。

人口減少は町の基礎を揺るがす深刻な最大の課題ととらえ、子育て支援（新事業の開始、拡充、学校等は無償化）を進め、平成 24 年には「子育て応援宣言の町」を宣言して、生まれる前から大学卒業まで切れ目のない経済的支援を行っています。また、町民同士で支えあう子育てサポート制度、仕事コンビニ事業、子ども議会、企業誘致による働く仕事の提供（16 社立地約 800 人就業）、住環境の整備等、地域課題の解決に尽力し子育てしやすい環境となっています。これらの政策の成果もあり、令和元年、合計特殊出生率 2.95 を記録しています。

現在、日本は少子化社会になり、今後も出生数の減少、人口減少も一段とすすみ、国の少子化対策が一定の効果を上げて、合計特殊出生率は長期的に 1.3 から 1.4 程度で推移するとの見通しを示されています。

栗原市でも国、県と連携しながら、妊娠期から子育て期まで、切れ目なく支援を受けられる体制へと移行してきています。しかし、今後も少子化が進み、高齢化率が年々高くなると予想されます。奈義町の少子化対策を参考に市政に提言致して参りたいと思っています。

会派視察 意見書

会派名	Next くりはら	氏名	菊地 広志
視察日	令和 8 年 7 月 6 日～8 日		
視察先	① 岡山県高梁市（高梁市役所健康づくり課・高梁市消防本部） ② 岡山県勝田郡奈義町（総務課・なぎチャイルドホーム）		

視察内容（※概要・所見・市政に生かせることなど）

①

視察先 岡山県高梁市

視察項目 「ママ・サポート 119」について

岡山県高梁市では、市内に分娩施設がないという地域課題に対応するため、「ママ・サポート 119」を運用している。妊婦が事前に氏名や出産予定日、かかりつけ医療機関、緊急連絡先などを登録しておくことで、119 番通報時に消防指令センターが必要な情報を迅速に確認し、救急隊へ伝達する仕組みである。

説明を受けて最初に感じたのは、「産科がないから仕方がない」で終わらせるのではなく、今ある体制の中で市民の不安を少しでも解消しようという行政の姿勢であった。新しい施設を造るのではなく、保健部門と消防本部が連携し、それぞれが持つ情報や役割を組み合わせることで、安全な搬送体制を構築していた点は非常に印象に残った。

制度開始以来、登録者は延べ 1,351 件、搬送実績は 90 件に上り、近年は登録率もほぼ 100%となっている。担当者からは、妊婦や家族から「安心して病院へ向かうことができた」「救急隊が落ち着いて対応してくれた」といった声が寄せられているとの説明があり、この制度が単なる救急搬送の仕組みではなく、出産への不安を和らげる安心の制度として定着していることが伝わってきた。

また、制度を支えているのは、消防隊員への産科救急研修や医療機関との連携、そして保健部門との日頃からの情報共有であることも分かった。制度を導入す

るだけではなく、運用しながら改善を積み重ねていることが高い登録率や市民の信頼につながっていると感じた。

現在、栗原市でも産科医療を取り巻く環境は厳しく、今後も安心して出産できる環境づくりが重要な課題になると考える。高梁市のような取組は、多額の予算を必要とせず、既存の体制を生かして実施できることから、今後の栗原市でも十分に導入できる事業だと感じた。

②

視察先 岡山県勝田郡奈義町

視察項目 少子化対策（合計特殊出生率向上への取組）及びなぎチャイルドホームについて

岡山県奈義町では、全国的にも高い合計特殊出生率を維持している背景と、地域全体で子育てを支える「なぎチャイルドホーム」を中心とした子育て支援について視察を行った。お隣の大津市からは 1 時間に 1 本のバスでの交通手段しか無く、高速も JR も通っていない町でもっぱら移動は自家用車とデマンド交通、それに巡回バスとの事だった。

人口約 5,300 人の町であるが自衛隊の日本原駐屯地がある町で、担当者から最初に説明があったのは、「出生率を上げることだけを目的に施策を進めてきたわけではない」ということであった。人口減少が進む中で、子育てしやすい環境を整えることが町の将来につながるという考えのもと、福祉、教育、住宅、雇用などを手厚く一体的に進めてきた結果が、現在の成果につながっているとの奥町長と森藤総務課副参事の説明であった。

現地視察のなぎチャイルドホームでは、親子が自由に集まり、保護者同士が交流しながら子育ての悩みを相談できる環境が整えられていた。また、一時預かり事業や自主保育活動などを通じて、行政がサービスを提供するだけではなく、地域住民も子育てに関わる仕組みが定着していることが印象に残った。施設を管理する行政は必要な支援を行いながらも、活動の主体は利用者である保護者や地域住民に委ねられており、「地域で子どもを育てる」という考え方が自然に根付いていた。

さらに、子育て世代が短時間でも働ける「仕事コンビニ」事業や、若者向け住宅、移住・定住支援など、子育てだけではなく生活基盤まで見据えた施策が展開され

ていた。それぞれの事業が単独で存在するのではなく、互いに連携しながら子育てしやすい環境を支えていることが、奈義町の大きな特徴であると感じた。

今回の視察を通じて最も印象に残ったのは、少子化対策は補助金や支援制度だけでは成果は上がらず、「この町なら安心して子育てができる」と感じられる環境づくりを長年積み重ねてきたことにあるという点である。そのためには行政だけでなく、地域住民や関係団体が同じ方向を向き、それぞれの役割を果たしていることが重要であることを改めて認識した。

栗原市でも出生数の減少が続く中、奈義町とは人口の違いで一概には比較はできないが、経済的支援の充実はもちろん必要であるが、それだけでは十分ではない。子育て家庭が孤立しない仕組みづくりや、安心して働き、暮らし続けられる環境を整えることが、これからますます重要になると感じた。

今回の視察で学んだ奈義町の考え方や取組を参考にしながら、栗原市の実情に合った少子化対策について調査・研究を重ね、今後の議会活動や政策提言に生かしていきたい。